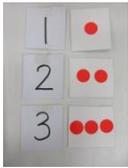
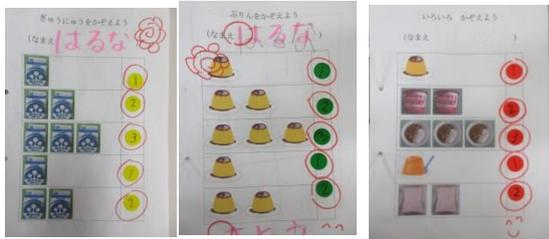


1 チーム名（研究対象領域・教科） 小学部 さ・ん・す・う	
2 メンバー	小学部教員4名
3 チームのテーマ 生活に生きる数の学習について	
4 対象児童に願う主体的な姿 5年A児：数を意識しながら「1、2、3」の物（給食の牛乳）を取り出す姿	
5 研究仮説 5年A児さん：物を取り出す動作（目、手）と数唱（指）を組み合わせ、繰り返し数えることで、「1・2・3」の物を取り出すことができるのではないか。	
6 児童の実態 ○数字並べでは、1～5の数字カードは正確に並べることができる。 ○数詞「いち」～「じゅう」と数字「1」～「10」をほぼ組み合わせることができる。 ○発語がほぼないため声による数唱はできない。指で示すことで代用している。（1、2、5、6、10は正確にできる。3は2の指を出すことが多い。7、8、9は6の指とほぼ同じになる。） ○「1」「2」「3」の大きさは違うらしいことは分かっているが、量の概念はない。 ○給食の牛乳をお盆に配るとき、端から1本ずつ順番に並べられないことがある。 ○楽しい雰囲気、気に入った教材でないと学習に集中できない。数え板を数える活動には興味を示さない。	
7 研究実践	【各学期の成果と課題】
<div data-bbox="145 1003 762 1637" data-label="Complex-Block"> <p>1学期の実践</p> <p>(1) 毎回、1～10の数字並べと数詞と数字の組み合わせ、数唱（指）をする。</p> <p>(2) 教師の数唱に合わせて、ゼリーや宿泊学習のバイキングの模型を操作する。</p> <p>(3) 示された数の具体物を取り出す。</p> <div data-bbox="225 1256 743 1585" data-label="Complex-Block"> <p>① 数字カードを見せ、数唱（指）する。</p> <p>② シールカードのシールを数える。</p> <p>③ 示された数の具体物（ゼリー、牛乳）を取り出す。</p>  </div> <p>(4) 給食の牛乳をお盆に配る。</p> </div>	<div data-bbox="839 1003 1425 1621" data-label="Complex-Block"> <p>(1) 数字並べでは6、7で間違わなければ10まで正しくできるようになった。</p> <p>(2) 数に興味をもち、生単など（からあげ、七夕飾り）でも自分から数唱したいと意思表示するようになった。</p> <p>(3) 2と3は同じになることもあるが、数字を指で示すことができ、1つずつシールを指さして数えることができた。 ○教師の絵本の読み聞かせに合わせて、数字を指で追ったり、「1～3」を指で示すようになった。</p> <p>(3) 示された数の具体物を取り出すことができない。「1」はできることが多いが、「2」「3」はできず、繰り返しやるとかえって混乱してしまった。</p> <p>(4) 友達が持ってきた牛乳を1本ずつお盆に配ることができた。順番通りでないことがあった。</p> </div>

2学期の実践

(1) ワークシートを用いて1～3の半具体物を数える。

- ① 絵を指さしながら数える。
- ② 数唱(指)する。
- ③ シールを選んで貼る。



(2) 数字とシールの数の組み合わせを選ぶ学習。

- ① 「1、2、3」の数字カードを裏返しにして1枚選択する。
- ② 選択した数字と同じ数のシールが貼ってあるカードを選ぶ。

(3) 牛乳係として食堂から示された数の牛乳を持って来る。

- ① 数字カードとシールカードを貼ったかごを持って食堂へ行く。
- ② 1つずつ数えながら必要な数の牛乳を取り出す。
- ③ 数唱(指)する。



(4) 10個の玉を1つずつ左に動かす教材を使用。

(5) 犬のぬいぐるみと餌に見立てたフェルト玉を使って1対1対応の学習。

(1) ワークシートの問題が正しくできるようになった。目の前にある半具体物(牛乳、プリンやカレーライスなども)が数えられた。具体物の牛乳パックやじゃがりこを数え、「1、2、3」の数字カードを選ぶこともできた。

(2) 選択した数字と同じ数のシールが貼ってあるカードを見分けることができ、「1、2、3」の大きさの違いは意識できるようになった。

(3) 牛乳係として1本持つてくるところから始めたところ、手順に従ってすぐにできるようになった。3本に変更したばかりのときは1本持つて来ることがあったが、次第にできるようになった。数を自由に選んだときは、混乱し意欲を失ってしまった。

(3) 牛乳を1本取り出す度に数唱(指)させるため、かごを首から提げる物にして両手が使えるようにしたが、本人が嫌がったためやめた。

(3) 数えるときの目安にするため、かごの中に牛乳パックの底の部分をもつて置いたが、毎回3本入れるようになってしまった。

(4) 収穫したさつまいも、ホットケーキづくりの卵、制作したトンボに貼ったシールなどを数えようとする姿が見られた。

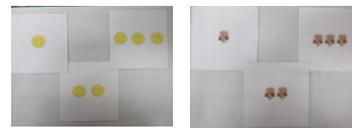


(グループの先生方のアドバイス)

○1本ずつ数えるやり方だけでなく、具体物の量(牛乳1本、2本、3本のかさ)も同時に感覚でつかんでみてはどうか。今は数字カードと空の牛乳パックを食堂に持参している。

○数字と半具体物の数の組み合わせを瞬時に行う学習を赤いシール以外でも行ったらどうか。

ほぼできた。



8 成果と課題

A児に、数詞、数字、数唱、具体物、半具体物を関連させながら、目や手の動き、指の動きとともに体験的に量の概念を獲得させたいと思ったが、なかなか成果があがらなかった。本人の興味がある教具、生活に関わる教材を取り入れてきたが、数え板などを用いてきちんと段階を追った学習をし、数え込む経験もするべきだったかもしれない。

日常生活で、数えてみたいという意欲が増したことや正しくできたときの喜びを感じることができたのはよかった。

少人数の研修グループであったが、改善策を話し合って実践に生かすことができた。一人では気づかない視点からの意見も多く出された。対象児の実態は様々だったが、今年度だけではなく将来の児童の姿を想像しながら、生活に生きる算数を考えられたことは有意義だった。